(社)日本技術士会 原子力・放射線部会
(社)日本原子力学会 原子力教育・研究特別専門委員会 共催

平成 20 年度 原子力・放射線部門新技術士講習会(一次・二次合格者合同)
(報 告)

日 時: 平成 21 年4月3日(金) 13:30～17:20
場 所: 葺手第二ビル5階 日本技術士会会議室(A、B)
参加者: 来賓:4名、二次合格者:18名、一次合格者:3名、部会員:13名、計:38名

平成 20 年度の技術士原子力・放射線部門の第一次試験及び第二次試験合格者を対象にした講習会が例年通り開催された(司会;濱崎幹事)。 以下にその概要を報告する。

1. 開会の挨拶
(原子力・放射線部会 林部会長)
合格おめでとうございます。今回の平成20年度 原子力・放射線部門の合格者数は第一次試験156名、第二次試験61名で、累計では第二次309名、第一次は1200名を超えました。 厳しい試験ですが、原子力・放射線部門は他部門と比べ合格率が高い。これは優秀な人が多いと言うことだと思います。
今日は、技術士としてCPDを今後どのように重ねていくべきかや、登録方法等についての話が予定されていますが、重要なのはその後の懇親会です。是非出席いただき諸先輩の生の声を聞きながら懇親を深めてほしいと思います。

2. 来賓から合格者への祝辞 (到着順)
(JNES 成合特別顧問)
合格おめでとうございます。近くにJNESがあることもあり、毎年ご挨拶をしております。今まで発足から 5 年半JNES理事長を務めましたが、今年 4 月から特別顧問となりました。先日の原子力 eye の技術士特集号(12月号)にも書きましたが、この部門発足のきっかけは、秋山守先生(数日前に他界)からの電話が発端で、当時私が原子力学会副会長や教育関係の担当だったこともあり、工藤先生等と相談して原子力学会から原子力部門設置の要望を出したことから始まっております。
現在のように高度な技術社会においては、資格を活用できる資格社会でないと本当の技術社会にならないと考えており、以前から原子力学会で大橋先生達と議論し、機械学会ともやってきたわけです。原子力は総合部門だから、既に機械、電気、応用理学部門があるからいいじゃないかとの意見もありましたが、放射線利用の分野も大きく伸びていることもあり、結果的に部門設置が認められ現在に至っています。この総合的な分野でどのようにしたら資格が活用できるかは、やり

ながら考えていくしかないと思います。形だけ作るのは簡単ですが、このような場合はたいてい失敗するもので、実際やっている人たちの意見を反映することが重要でしょう。何でも国の責任にして国に任せるのもよくない。しっかりした資格であれば国も活用する。最近、漸く学会規格を活用しようとする動きになり、次のステップは技術士の活用だと思います。よろしくお願いします。

私どもJNESも他部門の技術士は多くいるが、原子力・放射線部門にも漸く昨年２名、今年１名合格したのでうれしく思っています。また、人材育成グループができ、技術士受験の講演（4/14）を林部会長にお願いしているので、もっと技術士が増えることを期待しています。

（JAEAJ-PARC センター　柴田客員研究員）

合格者の方おめでとうございます。私も毎回出席させていただいています。私の場合は成合先生達の立ち上げ後、今は交代しましたが科学技術・学術審議会技術士分科会試験部会の委員として試験委員を決めるところから関わってきました。

前回の懇親会で盛り上がって、このようなことを言ったのを覚えています。「武士はいざと言う時は切腹の覚悟を持って事に臨む。戦うのが商売ですから、体の鍛錬、武術、論語等の教養や心を磨き、一般の人とは違う努力をしている。以前はその様な階層が社会の中にあったが、戦後日本では金持ちは増えたが、このような清廉潔白な層が居なくなってしまったことが問題である」。現在、技術士は他の資格と比べ(建設以外は)特別なメリットはないが、倫理にこだわった特別な資格です。倫理の観点から信頼される層があることはとても重要です。政治家や経済界は問題が多いが、技術士が言うことは信頼できるという存在になってほしい。

自分の技術はCPDで研鑽を積むことは勿論だが、技術バカでもだめで人格高潔な教養を高めた集団になってほしい。大学の先生はえらいと言っても専門的な分野についてであり、必ずしも全般的ではない。技術士は専門技術は勿論のこと、教養が高く一言々々に重みがあると言われる層を目指してほしい。それが社会から認められることにつながると考えています。今年の懇親会は何で盛り上がるか楽しみです。

（日本技術士会　高木専務理事）

本日は合格おめでとうございます。先生方の部門発足のご尽力を伺いましたが、私はできた後に来てまだ苦労はしていません(笑)。原子力では国の原子力安全課長や放射線安全課長も務め、チェルノブイリ事故では対策本部で苦労したと言う被曝（？）経験があります(笑)。出身は福島県楢葉町で、祖父は町長をやっていて東電の福島第二原子力発電所の誘致にも関係したようですが、そういう点では原子力とのかかわりは長いものがあります。

技術士は原子炉主任者や放射線取扱者資格の様に業務上必要な資格と違い、儲かる資格ではありませんが、社会形成上は倫理が必要で今一番問われていることです。これから技術士になられ、CPDを行い幅広いスコープで仕事に臨むことになるわけですが、これはスタートラインと考えて良いと思います。資源小国の日本が原子力なくしてどうやって生きていくかを考えると、日本を支える重要な分野ですので、今後皆さんが技術士会の中核になられんことを祈念しています。

（九州大学　工藤教授（日本原子力学会副会長））

お祝いを述べさせていただきます。昨年から原子力学会の副会長を務めていますが、原子力・放射線部門の関連としては、原子力学会に原子力教育研究特別専門委員会があり、その中のCPDWGでもお手伝いをしています。今も科学技術・学術審議会技術士分科会試験部会の委員をやっています。H16年にこの制度がスタートした後、今まで順調に試験も無事故でやって来られました。個別技術部門20番目の最後発部門としては一次、二次とも合格率がトップであり、試験に関わった者として大変誇らしく思っています。文科省も一定した合格率を望んでおり、他部門ではかなりばらつきが見られるが、原子力・放射線部門は安定状況で推移しています。

今後は、この資格を如何に有効活用するかの努力が必要です。例えば既に原子炉設置許可申請時の技術的能力を証明する資格として認められています。これも一つの進展でありますが、更にこれを事業者だけなく、メーカーや海外契約に有効に使えないかについての検討や働きかけも行っています。この資格が直ちに昇格や給与・手当てに反映されるわけではありませんが、大変立派な公的資格ですので、有効活用については我々も努力する番と思っています。皆さんには今までに増して高度な技術者としての活躍を祈念しています。

3．新技術士のための講習

部会幹事が分担し、下記の内容についてプレゼンテーションがなされた。

1）日本技術士会の活動と技術士登録について（林部会長）

2）CPD登録、APECエンジニア登録、EMF国際エンジニア登録、技術士の特典について（中野幹事）

3）原子力・放射線部会の活動（桑江幹事）

4）技術士制度活用について（佐川理事）

5）平成20年度技術士二次試験について（一次合格者向け）（成川幹事）

4．写真撮影、休憩

平成 20 年度新技術士講習会記念写真

5. 合格者の自己紹介

合格者の自己紹介を兼ね、現在の業務、試験の感想及び部会での活動提案等につき各自 2 分程度で今後の抱負が述べられた。以下のとおり。

・合格者に秘訣を聞いて合格して良かった。この試験は今後更に難しくなると思う。CPD を含めここがスタートと思っているのでご指導よろしく。
・1 回目は口頭試験で不合格だった。合格したことも嬉しいが、技術レベルアップのためにも技術士を目指して良かった。早速、先輩と技術士を受けるように社内で宣伝した。今後メンバーを増やしていきたい。
・機械部門の資格も持っている。機械は幅が広く勉強しにくかったが、原子力は絞って勉強できた。今後部会に入って CPD ゴールドを目指したい。
・同僚と互いに競争意識を持って受験したが、自分だけが二次も合格した。
・会社の中堅として、何をやろうかと迷っていたときに、技術士と出会いチャレンジした。
・2001 年に応用理学に挑戦し不合格。その後何回もチャレンジし、今回原子力で漸く合格した。年を重ねると倫理感に重みを感じ、心構えができ合格できた。
・一次は機械で受験し、二次は原子力で合格した。
・桑江幹事の原子力 eye （注：正しくは「火力原子力発電」）論文に啓発され 受験した。
・原子力発電所に勤務しているが、不祥事については大変反省している。技術士のテーマは倫理にあるので挑戦した。米国 PE の資格も持っているが日本でも使えるように頑張りたい。
・2 回目で合格した。これを契機に他の分野の仕事もしてみたい。
・妹の方が先輩で、技術士補の資格を持っている。社内は技術士資格に疎いので PR していきたい。
・技術士はやりがいを持って進められるのが本分だと思う。
・合格したのは、会社が受験指導をしっかりやってくれているお陰だと思う。

6. 先輩技術士からの祝辞と自己紹介

先輩技術士から自己紹介と合格者に対する祝辞と期待が夫々述べられ、原子力・放射線部会への入会等のお願いがなされた（内容省略）。

7・懇親会

会場は部会の「ホームグラウンド」、付近の穴場的居酒屋「串特急」。林部会長が挨拶で述べられたように、懇親会は講習会の大切なイベントであり、今回も先輩技術士達が合格者の労をねぎらい、部会活動の意義や今後の抱負等を所属組織の垣根を越え本音で熱く語り合うことができました。最後までお付き合い頂いた成合先生、工藤先生、柴田先生にも感謝いたします。鈴木部会員が紅一点で参加されたこともあり若いパワーで盛り上がった有意義な一日でありました。

以上

（文責　伊藤）